

# 2023 年度 武蔵野学芸専門学校 事業報告

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

(担当者：校長 三上慎之介)

## ●在籍者数 (2024 年 5 月 1 日現在)

(単位：名)

課程	専門課程	高等課程	計
学科	国際コミュニケーション学科	国際芸術学科	
入学定員	60	40	100
収容定員	120	120	240
新1年生	65	29	94
新2年生	35	30	65
新3年生	-	27	27
計	100	86	186

### I. 2023 年度の事業概要

- ① 専門課程では、難関美術進学、編入、大学院進学、作家活動、就職、留学などの多岐に分かれる美術の進路に対応する教育を行った。2023 年度においては、就職対策の強化を図るため、デジタル教育の一環としてグラフィックソフト授業の開設、デジタルカメラによる撮影と写真加工の授業を充実させ、月一回以上の就職セミナーの開催、エントリーシートサポートの強化、企業訪問の拡充を行った。
- ② 高等課程では、東京藝術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、女子美術大学、日本大学芸術学部との大学連携による進学校としての地位確立に加え、映画『キングダム』監督の佐藤信介氏、サンリオデザイナー特別授業、電通デザイナー 今井祐介氏、元東京藝術大学教授・アーティスト OJUN 氏による卒業制作公開講評会を実施し、美術の学びの中にある「思考力」「発想力」「生きがい」「目標」を生徒に体感させた。

事業目的項目	達成度
(1) 難関美術大学進学	達成度95%。多摩美術大学17名、武蔵野美術大学8名など美術大学に69名の過去最高の合格者を輩出した。
(2) 教員・カリキュラムの質の向上	達成率 90%。専門課程では、カリキュラムを抜本的に見直し、就職という目標を明確化する教育に変更した。また、写生合宿、ギャラリーツアーなどの学外活動の充実を図った。高等課程では元東京都美術工芸研究会理事長 中村美知枝氏とともに美術教育的な観点からカリキュラムの改訂を行った。また、今年で9年目となる東京藝術大学サマーキャンプ、女子美術大学オータムキャンプなど大学内での連携授業を継続して行った。
(3) 企業連携授業による教育力の強化	達成率 90%。連携企業 6 社による特別授業（宮内不朽堂、こびとのくつ株式会社、株式会社電通、株式会社サンリオ）。また、画家 山口晃氏を始めとしたアーティスト・デザイナー・イラストレーター（8 名）による特別授業を拡充し、実施した。

### II. 2023 年度の取り組み

#### 1. 2024 年度入学生募集活動

##### 入試状況

課程名	受験者数	入学者数
専門課程	115 名	65 名
高等課程	30 名	29 名

#### <募集活動における課題と改善策>

- (1) 専門課程オープンキャンパス 93 名参加、高等課程オープンスクール 104 名参加

- (2) 専門課程においては、魅力ある体験授業、個別面談の充実により日本人入学者が 25 名となり、昨年比+12 名と増加した。今後は人気のあるコースを中心に魅力ある学校づくりを行いたい。また、高等課程ではパンフレット等の広報物のすべての見直しを行い、特に人気の高いイラストコース志望者へのアプローチを強化することで、広報活動の改善を行う。併せて、高等課程においては編入希望者の獲得に向けた広報活動についても拡充する。

## 2. 2023 年度に実施した新たな事業内容の結果と 2024 年度への課題

事業目標	事業内容	2023 年度への課題
(1) 学生募集強化	達成率 90%。知名度戦略として、SNS 広報活動 (Twitter、Instagram 等) を強化するとともに進学サイト、YouTube、MEO 対策によってホームページへの動線を確認させ、2024 年度の資料請求者数を増加させた。また、同時に卒業生、在校生の満足度を上げることで、ファンサポートによる認知度向上を目指した。	高等課程においては入学者が昨対比-4 名となり、伸び悩んだ。今後の課題として高等課程の広報物のデザイン、及びホームページの見直しをすることでブランディング戦略の立て直しを行う。同時に同窓会の実施により、卒業生のファンサポート強化を実施する。
(2) 研修による教員育成	達成率 90%。全教員に向けた教職員総会、教員研修、教員学習会を開催し、また教員学習会では元東京都美術工芸研究会理事長 中村美知枝氏による特別講義「高校美術教育について」を行った。	専門講師による展示活動を推進させるため、寺田倉庫 what cafe、佐藤美術館 立島恵氏とのアート連携を強化し、専門講師の教育の信頼性と質の高さを上げて学生の求心力につなげる。
(3) 公募展出品を奨励	両課程において、公募展に出品し学生が外部から評価を得ることで、自己肯定感を上げる仕組みづくりを行った。 (受賞内容：松濤美術館公募展入賞、極小版画コンテスト入賞など)	公募展への出品を引き続き促進していくとともに、学生の個展やグループ展の開催が活発に行われる学校づくりを行なっていく。

## Ⅲ. 教育成果

### 1. 主な進学・進路先

多摩美術大学 15 名、多摩美術大学大学院 2 名、武蔵野美術大学 6 名、武蔵野美術大学大学院 2 名、東京造形大学 4 名、女子美術大学 9 名、日本大学芸術学部大学院 3 名、沖縄県立芸術大学大学院 1 名、大阪芸術大学大学院 2 名 他

### 2. その他特筆すべき事業成果

項目	事業内容・結果
(1) 漫画家対談イベント	漫画家 4 人による対談イベントを開催。森茶氏は、小学館コロコロコミックにて『ゾイドワイルド』、丸山恭右氏はサイコミにて『TUYOSHI 誰にも勝てないあいつには』、山科ティナ氏は主婦の友社、茂木ヨモギ氏は小学館少年サンデーで連載されている。
(2) 武蔵野市執務スペースサインデザイン 採用決定	武蔵野市役所からご依頼を受け、武蔵野市役所、武蔵野市公共施設で使用する執務スペースへの立ち入り禁止デザインを学生たちが制作した。両課程から 5 名の学生が選出され、3 月より使用されている。
(3) 武蔵野警察署犯罪防止ポスター制作	武蔵野警察署が武蔵野市内で犯罪防止のために使用するポスターを本校専門課程生が制作し、警察署長から表彰状を授与された。

以上